

▶ 新篠津村の 輸出取り組み事例

新篠津村農業協同組合

農産部直販課 伊達 和哉

新篠津村の概況

新篠津村は、総面積の約66%を農地が占める「純農村」であり、石狩川の恵みを活かした道内有数の米どころです。

- ・ 人口：約2700人
- ・ 水田本地面積：約4800ha
- ・ 耕作者戸数：217戸（平均耕作面積 約22ha）
- ・ ほぼ全てが個人経営で道内有数の経営規模
- ・ 農業産出額の100%が耕種で占められており、畜産は行われていないのが特徴です。
- ・ 令和2年、J A系統で全国初の乾燥調製施設を含めたGLOBAL G.A.P団体認証を取得しました。
- ・ かつての泥炭地を土地改良によって豊かな水田地帯へと変えた歴史があります。
- ・ クリーン農業: 北海道独自の認証制度「YES! clean」への取り組みを推進し、安心・安全な農産物ブランド化に注力しています。
- ・ 自然環境の利点: 山がないため、吹き付ける強い風が病害虫を遠ざけ、農薬の使用を最小限に抑えられるという強みがあります。

輸出への取り組み

■基本商流

民間企業や現地の外食チェーンと連携し、生産から現地の胃袋までを繋ぐ商流を構築。

★アメリカ

平成26年よりアメリカ向けに、外食チェーンのアメリカ進出に協力する形で輸出開始。

単価が見合うものではなかったが、国内で高価販売を行うことで総体的に生産者の手取りを維持していました。

現在も継続的に輸出されているほか、他の貿易会社を通じての販売も行っています。

★フランス

上記外食チェーンのフランス進出に合わせて輸出開始。当初より特別栽培米を使用していたため、厳しい農薬基準もクリアしており、おむすびブームも相まって、輸出量は増加傾向にあります。

★台湾

商社経由での白米輸出を開始。白米輸出は台湾で初。数量も倍増しましたが、精米処理が追い付かず半数は玄米での輸出をしています。令和7年に台湾の湖口郷農会と友好連携協定を結び関係をさらに強固なものにしています。

★シンガポール

令和元年の現地視察で「ななつぼし」の認知度の高さを実感。農機具メーカーを通じた一般消費者向けの小売りルートを開拓し、現在では年間約200トンの最大輸出先へと成長しました。

★香港、タイへの輸出

ホクレンを通じての輸出を開始しています。

取扱数量						単位：トン
輸出国	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	備考
アメリカ	14	16	67	68	45	
フランス	6	20	40	39	99	
シンガポール	100	100	100	131	231	
台湾	20	20	44	147	151	
香港				107	107	
タイ				61	61	
合計	140	156	251	553	694	
ホクレン取扱（上記内数）						単位：トン
輸出国	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	備考
台湾				107	107	
香港				107	107	
タイ				61	61	
シンガポール				31	31	
合計	0	0	0	306	306	

■ G A B A米の展開

■ G A B A米とは

岐阜の業者より譲り受けた特殊製法により、白米と変わらない状態でG A B A値の高い白米（従来の白米の約10倍）の商品が完成しました。G A B Aにはストレス軽減や血圧、血糖値を下げる機能もあると言われていたアミノ酸の成分で、白米は継続的に食べやすく、健康に寄与するものと考えています。

味も白米と遜色なく、匂いもほとんどないので白米と変わりがないです。

現在のG A B A米の海外展開状況

- ・ 外国語ホームページの作成
- ・ 外国語パンフレットの作成
- ・ G A B Aプロテインプラスの開発
- ・ 冷凍保管の検証

■現在の海外展開状況

★台湾

令和4年に台湾に300kg輸出し、ドラッグストアに展開しました。大手企業との商流開発に成功するものの生産量の拡大と、コストについての課題。

★ベトナム

令和6年度にベトナムへサンプル輸出を実施し検討いただいたところ、食味は良いが見た目が白米と変わらず模倣品対策が難しいとの課題。

★マレーシア

今年度は糖尿病が問題になっており、現地の肌感についての調査をしてきたところ、糖尿病に悩む方はかなり多く、興味を持っていただきましたが認知度が低いのが今後の課題。

■ 輸出の課題や今後の展開など

- 輸出に取り組むに当たっての不安、疑問、苦労した点
 - ・ 輸出先の選定
 - ・ 輸出のために必要な書類
 - ・ 数量と価格交渉について
- 輸出用米の生産に当たってのポイント
 - ・ 特別栽培米の生産
 - ・ 品質は国内で流通している米と同じ調製
- 輸出用米等に取り組むことによる経営の影響等
 - ・ 主食用米の枠外として取り組める（米が作れる）
 - ・ 単価は低いものの、国の支援があるため大きな遜色はない
- 今後の展開（今後目指していること）
 - ・ フラッグシップ輸出産地を目指す